



## 企業インターンシップ についてご報告します

今年度のメディカルバレー事業としての企業インターンシップは13名を受け入れました。

今年の企業インターンシップの受入は過去最高の4社13名の受入となりました。受入の内訳としては万協製薬(株)で6名、昨年度から2年連続で受入しているエステートケミカル(株)で1名、ニプロファーマ(株)で5名、(株)ミルボンで1名の受入となっています。今回は万協製薬(株)とエステートケミカル(株)にお話を伺いました。

万協製薬(株)では、メディカルバレー事業でのインターンシップ6名を含む合計9名を受入れました。うち鈴鹿医療科学大学薬学部は5名でした。5日間の受入でしたが、受入に際しては、学生が硬くならないように、できるだけリラックスして社員との距離が少なくなるよう工夫をしました。会社の現場を全て回るようにし、社員と同じように日誌も書き、他の社員がコメントを書きました。実際の仕事ではコミュニケーション力が重要なので、学生が社員に溶け込めるようにしています。学生にとって勉強の場になったと思いますが、社員も刺激を受けたとのことでした。

エステートケミカル(株)では、東海地区の薬学部生を1名3日間受入れました。製造現場での菌検査、シャンプーやトリートメントの試作、分析、薬事データの入力を行いました。学生にとっては製造現場での仕事が一番興味のある内容で、学校で習わない実践的な勉強ができたとのことでした。



万協製薬でのインターンシップの様子



エステートケミカル本社工場

## 三重県でのインターンシップ受入

8月21日~24日に三重県職員インターンシップを実施し10名の薬学生を受け入れました。



松阪保健所での研修



三重県工業研究所での研修

三重県では薬系人材の確保・育成を目的として近隣の薬科大学の学生を対象にインターンシップを実施しています。

今年度の行政インターンシップは過去最多の10名を受け入れ、うち5名が鈴鹿医療科学大学の学生でした。初日は健康福祉部薬務感染症対策課の増田課長から、4日間のインターンシップについて激励の言葉が贈られました。

三重県庁をはじめ松阪保健福祉事務所、三重県工業研究所、三重県保健環境研究所など薬剤師がかかわる県職員の様々な職場を見学し、業務について説明を受けました。

インターンシップ終了後のアンケートでは、県職員として薬剤師が活躍する様子に触れることができたのは貴重な経験で今後の進路を決めるのにとても役に立ったという感想が多く寄せられました。

## メディカルバレー企業紹介

### ヴィーヴィック化粧品株式会社

日本酒由来の化粧品の元祖

ヴィーヴィック化粧品(株)は亀山市に本社を置く化粧品メーカーです。四日市市の酒造会社とのコラボで、日本酒由来の化粧品を20年近く作っています。同社の化粧品は、歌手の西野カナさんもメディアなどで紹介しています。今回は、板谷公臣社長を訪ね、ヴィーヴィックのこだわりについてお話を伺いました。



杜氏シリーズ

蔵人シリーズ

日本酒は、多くの種類のアミノ酸、ビタミン類や糖類が含まれ、保湿性に優れているといわれています。日本酒を造る際は、米の不純物を全て取り除くので、大変良質の成分になります。当社の日本酒を入れた化粧品は成分としては米発酵液と記載しています。一般に米発酵液を使った化粧品は不純物の入ったものが多いのですが、当社では「日本酒」にこだわっています。

当社が最初に手がけた日本酒由来の化粧品が「杜氏」シリーズです。杜氏とは、お酒を造るチームの監督者のこと、お酒の味、香りや色などをチェックします。「杜氏」シリーズに続き、鈴鹿山麓の名水と最高級米「山田錦」で造った純米吟醸酒を配合した「蔵人」シリーズも生まれました。これら日本酒由来のブランド品以外でも、お客様からの依頼

で、OEM商品の開発も手がけています。お客様のニーズに応じて、小ロットでも対応できます。現在、15社のお客様から100品目のOEM商品を取扱っています。

メディカルバレー事業では、地域資源を活用した化粧品の開発に関心があります。三重県には豊富な地域資源がありますので、多くの事業者が参加して、三重県の産業の活性化につなげてほしいと思います。

#### ヴィーヴィック化粧品株式会社

〒519-0124 三重県亀山市東御幸町59  
TEL/0595-83-1009 FAX/0595-83-1155  
<http://www.vievic.co.jp>

### 株式会社奥村ゴム製作所

自動車部品の技術を医療分野へ!

(株)奥村ゴム製作所は松阪市が本社の自動車用チューブを主たる業務とする企業です。社名では「ゴム」となっていますが、最近では樹脂製品が大半です。乗用車向けのガソリン用チューブを長らく手がけてきましたが、最近では、大型車向けのものも取扱っています。これまで自動車部品で培った技術を活かして医療分野で貢献したいと願う奥村義治社長を訪ねました。

3年ほど前から、自動車用チューブの製造技術を活かして医療分野に進出したいと取引銀行に相談したところ、三重大学のコーディネーターと三重県のメディカルバレー事業の担当者を紹介していただきました。しかし当初は、医療分野への進出という方針は掲げたものの、何をすればいいか全く分かりませんでした。

いきなりカテーテルなどの医療機器はハードルが高いため、取っ掛かりとして、医療用の教材としての擬似血管に取り組むことをアドバイスいただき、三重大病院の先生を紹介され、開発に取り組みました。何回も試作を繰り返し、昨年12月には県の補助事業にも採択され、無事に極細の擬似血管の試作に成功し、三重大病院の先生にも好評をいただきました。

この試作を進める傍ら、医療専門コンサル会社も紹介いただき、そのコンサル会社から注射針メーカーの紹介を受け、このほど注射針用の保護材も発注いただいています。今



奥村 義治 社長

回は注射針メーカーの展示会用のものですが、年明けの量産に向けて社員一同がんばっています。

医療分野に取り組むようになってから、部品メーカー特有の下請の「待ちの体質」から「自ら動く体質」へと会社が変わってきているのを実感しています。また、メディカルバレーのマッチングのイベントなどで県内の他の部品メーカーとのコラボもできるようになったのも大きな収穫でした。

今後は、更に医療分野への進出を積極化して、奥村ゴムにしかできないオンリーワンの医療関連商品にチャレンジしていきたいと考えています。それを支えていくためにも、本業の自動車部品事業をより一層強化していきます。

#### 株式会社奥村ゴム製作所

〒515-0841 三重県松阪市曲町637-1  
TEL/0598-23-4059 FAX/0598-23-2708  
<http://okumura-rubber.co.jp>